

県中教研 英語部報

発行所 ●福島県中学校教育研究会英語専門部
責任者 ●目 黒 満
発行 ●令和 4 年 3 月 4 日

内 容

県英語専門部長及び県教育庁義務教育課指導主事あいさつ・・・	
令和3年度事業報告・・・	1
令和3年度の研究の振り返り・・・	2
令和4年度～令和6年度の研究の方向性・・・	3
令和4年度事業計画・・・	4

部 長 あ い さ つ



福島県中学校教育研究会英語専門部長 目黒 満

新型コロナ感染拡大の波は、県英語弁論大会の動画による審査、県研究協議会県北（相双）大会の書面開催など、中教研の活動にも大きな影響を及ぼしました。県大会資料への指導案ならびに実践記録、県北教育事務所 穂積隆志 指導主事の指導助言等の掲載、各支部の研究や取組の資料のデータ配付など、ご協力いただいた皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。今年度のこうした取組は、「Sustainable な中教研」の模索と働き方改革推進の流れの中で、いかにして研修を充実させるかという視点での取組とも言えます。

これまでの研究の成果と課題を踏まえ、令和4年度は新主題のもと、全校に配備されるデジタル教科書、GIGA スクール構想で配備された一人一台端末を活用し、見方や考え方を働かせながら積極的に思考・判断・表現する言語活動のための取組を進めていきましょう。県内各中学校の教室に、生徒同士や生徒と教師との英語でのやりとりが響き渡り、様々な情報や自分の考えが英語での発表や表現に生かされることを心より祈念します。

「オールふくしま」で英語教育の充実へ



福島県教育庁義務教育課 指導主事 渡部 真喜子

令和3年度研究集録一県北・相双大会一の英語科の実践では、深い教材研究に基づき、単元を通して、生徒自身が考えや気持ちを英語で伝え合う授業が報告されました。このように豊かな言語活動を通じた授業の充実のために、県教育委員会においても「英語担当教員ネクストステージ事業」と「小中英語パートナーシップ事業」で、先生方と生徒の英語力向上に取り組んでおります。

2025年以降の国際学習到達度調査（PISA）では、「外国語（英語）スキル」（オプショナルテスト）が追加され、世界中の英語教育に大きな変化をもたらすと言われています。私は、「英語を教えることは、子どもたちに命を守るすべの一つ増やすことと同じ。」と考えます。子どもたちが生きる未来を想定し、「オールふくしま」で英語教育を充実させたいと思います。

2021年度事業報告

【 主要事業実施一覧 】

- 英語専門部総会 5月 6日（木）パルセいいざか
- 主題研修会（紙面開催）
- 主題研修報告会 5月 下旬各支部
- 支部研究協議会 7月 下旬各支部
- 第70回県下中学校英語弁論大会 9月 3日（金）南相馬市立原町第二中学校動画による審査会
- 第1回ワークブック編集会議 8月 4日（水）郡山市こども総合支援センター
- 県中学校教育研究協議会県中・県南大会（紙面開催）
- 第2回ワークブック編集会議 11月 17日（水）郡山市こども総合支援センター
- 第71回全英連山形大会 11月 19日（金）11月 20日（土）（Zoomによる開催）
- 第69回東北六県中学校英語暗唱大会 11月 15日（金）（Zoomによる開催）
- 定例支部長会 2月 1日（火）（Zoomによる開催）

令和3年度の研究の振り返りと令和4年度の研究の方向

I 令和3年度の研究の振り返り

副主題 令和3年度 「コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる指導の工夫」

1 令和3年度の研究の成果

今年度は県大会が紙面開催であったため、県大会に向けて実施された授業から本研究の考察をすすめた。県大会開催に向けて準備等をすすめていただいた仲江川先生をはじめ、県北支部の先生方にこの場をお借りして謝辞を申し上げたい。

今年度は令和2年度の研究を引き続き行った。一昨年度出された3つの研究の視点から本実践を考察した。(令和3年度 研究集録—県北・相双大会—を参照)

(1) 他者意識をもたせる課題設定

「実在する地域の留学生からの依頼に答えるために、調べた情報をまとめて意見を書いて送る」という課題が設定されたことで、誰に、何を伝えるかが明確となり、調べる内容や伝える際にどのような情報を選ぶべきかといった判断を教師と生徒が共有することができた。(2授業者自評p.55)

(2) コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる学習過程

本実践では、情報を集めるために英文資料を読んだり、調べた情報や考えを話したり、意見を伝えるために英文にまとめたりと、目的達成のために学習過程が系統的にデザインされ、4技能5領域が有機的に関連付けられていた。(3大会授業案 学習過程 pp.58-59)

(3) 効果的なコミュニケーションにおける見方・考え方の働かせ方

留学生のメッセージ、ウェブニュースなどのオーセンティックな教材の使用、ジグソーリーディングやメモを基に話をする活動などが見られた。「社会や世界、他者との関わり」や「情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築」するなどの教科としての見方・考え方を働かせるための工夫が図られていた。(4授業実践記録 pp.59-61)

目的や場面、状況等を具体的に設定することが、他者意識をもたせ、学習過程を統合的にする。そのような学習活動の中で、生徒はコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる。3年間の研究の最終年度として、今回得られた成果を次年度からの新主題につなげたい。

2 令和3年度の研究の課題

今回の授業実践で出された課題は、特定の単元で特定の環境(学校または教室)で出された課題ではあるが、授業が研究主題や研究の視点をもってデザインされていることから、どの学校でも起こりうる、もしくは起きている課題と捉えることもできる。

(1) 「情報を調べ、英文にし、提示するのに相当な労力が必要。」や「情報共有で原文のまま伝える。」 (2 授業者自評 p.55)

情報の読み方や英語表現の方法などは知識及び技能である。必要な情報を読み取るのか、文章の概要を捉えるのか、文章の要点を捉えるのかを区別したり、文章の書き方を使い分けたりするための指導は学習指導要領の中でも示されている。[表1] 今後は、語彙や文法だけでなく、読み方や書き方などの知識・技能についての指導も研究していくことが重要である。

表1 4技能5領域の目標 [中学校学習指導要領解説外国語編1 目標を参考に独自に整理]

聞くこと	読むこと	話すこと (やりとり)	話すこと (発表)	書くこと
ア (日常的な話題について) 必要な情報を 聞き取る	読むこと 読み取る	(関心のある事柄について) 即興で 伝え合う		
		話す		正確に 正確に書く
イ (日常的な話題について) 話の概要を捉える		(日常的な話題について) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、 伝えたり、相手からの 質問に答えたりする		
		まとまりのある内容を話す		まとまりのある文章を書く
ウ (社会的な話題について) 要点を捉える		(社会的な話題に関して) 聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを 述べあう		
		話す		書く

(2) 「内容について、考えを揺さぶる発問やファシリテートの仕方が難しい。」(2 授業者自評 p.56)

生徒の考えを汲み取り、コーディネートするためには、深い教材理解と生徒理解、確かな指導技量が必要になる。生徒の主体的・対話的な学習活動をデザインしつつ、授業では生徒の実態に応じて適切にフィードバックをしなければならない。教材や生徒への理解を深めたり、指導技能を高めることは個々で行うものだが、そのための方法を共有したり、ワークショップなどで研修を積み場を増やしていくことも今後取り組むべきことである。

図1は石井英真氏が考案した「真正の学び」における学習環境デザインの構図を参考に作成した学習者と対象世界との関係を表した図である。教師はどこに位置し、どのような役割を担うべきか、教師の指導観についての研究を進めたい。

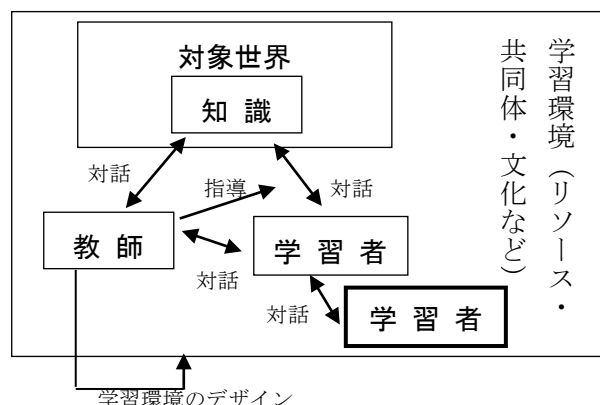


図1 学習環境のデザイン（石井 2015 より一部改変）

(3) 世界規模の課題についても、向き合って、自分の意見を発信していける生徒の育成

(2 授業者自評 p.56)

教科書が扱う題材は、「①地球市民として」「②日本の伝統と文化」「③異文化や国際社会」「④今日的課題」など、多様である。SDGs が広く知られるようになるなど、開発教育的の視点も今後研修が必要になると考える。（参考資料：東京書籍「豊かな心を育む多様な題材」）

II 令和4年度以降の研究について

1 研究主題（令和4年度～令和6年度）及び各年度の副主題

(1) 研究主題 社会や世界と向き合い、他者との関わりを大切にしながら目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育む指導はどうあればよいか。

(2) 副主題

令和4年度 ●見方・考え方が働く言語活動（目的や場面、状況等）の工夫

令和5年度 ●情報や自分の考えなどを形成・再構築し、伝え合うための指導過程の工夫

令和6年度 ●言語活動（指導）と評価の一体化のための工夫

2 副主題の系統性（3カ年の研究の流れ）

本県の英語専門部の副主題は、3年間を通じ、場面（課題）設定の追究（R4）、学習活動の追究（R5）、評価方法の追究（R6）と段階を経ることで研究主題の実現に迫る。

外国語科の見方・考え方は、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」である。

見方・考え方を働かせるためには、「多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて、既習のものも含めて習得した概念（知識）を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、身に付けた思考力を発揮させたりする」ような場面、状況で、生徒が「社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したり」しながらコミュニケーションを行うことが重要である。

「『見方・考え方』を確かで豊かなものとする」ことで、学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界の在り方を主体的に結び付ける学びが実現され、学校で学ぶ内容が、生きて働く力として育まれることになる。さらに、こうした学びの過程が外国語教育の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながる。」とされる。

本研究主題の追究は、新学習指導要領が目標とする資質・能力の育成を目指す研究となる。社会や世界の出来事や他者とのつながりを生徒に捉えさせるための明確な目的や場面、状況等を設定した言語活動の追究を通して、教師は見方・考え方についての理解を深める。令和4年度は、見方・考え方が働く場面設定（学習課題）において、生徒が主体性と相手意識を持ってどのような知識・技能を駆使して、どのように思考・判断・表現していくのかに焦点化した実践を積み重ね、新学習指導要領が示す資質・能力の育成を目指す3年間の継続研究の初年度となる。目指すべき方向性とその方法を追究するなかで、目の前にいる生徒の実態を積極的に評価し、指導を改善していくことが、社会や世界に目を向け、相手との関わりを大切にしながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成を実現していくと考える。

2022年度事業計画

● 英語専門部総会	5月19日(木)	福島市
● 主題研修会	5月19日(木)	福島市
● 主題研修報告会	5月 下旬	各支部
● 支部研究協議会	7月 下旬	各支部
● 第71回県下中学校英語弁論大会	9月 9日(金)	田村市文化センター
● 第1回ワークブック編集会議	9月 中旬	郡山市
● 県中教研究協議会会津大会	10月 6日(木)	会津美里町立高田中学校
● 第2回ワークブック編集会議	11月 中旬	郡山市
● 東北六県英語教育研究大会	11月 1日(火)	岩手県民情報交流センター
● 東北六県中学校英語暗唱大会	11月 2日(水)	盛岡市民文化ホール
● 定例支部長会	12月 上旬	郡山市
● 英語部報発行	2月 下旬	

● 分担一覧 ●

(1) 主題研修会（会場準備・司会・記録の支部分担）

係／年度	令4年	令5年	令6年	令7年	令8年	令9年	令10年
会場準備	両 沼	南会津	福 島	郡 山	田 村	両 沼	南会津
司 会	相 馬	いわき	伊 達	岩 瀬	北会津	相 馬	いわき
記 録	双 葉	安 達	石 川	東西しらかわ	耶 麻	双 葉	安 達

(2) 県下中学校英語弁論大会（開催地）

年 度	令4年	令5年	令6年	令7年	令8年	令9年	令10年
開催地区	県 中 (田 村)	会 津 (未 定)	県 南 (未 定)	県 北 (未 定)	浜 (未 定)	県 中 (未 定)	会 津 (未 定)

(3) 県中教研究協議会（開催地および分科会の発表支部）

年 度		令 4 年	令 5 年	令 6 年	令 7 年	令 8 年	令 9 年	令 10 年
開 催 地		会 津 (高田中)	浜 (未 定)	県中・県南 (未 定)	いわき (未 定)	県北 (未 定)	会 津 (嶋・田中)	浜 (未 定)
分科会	1 年	安 達 いわき	南会津 東西しらかわ	田 村 双 葉	相 馬 岩 瀬	耶 麻 石 川	北会津 福 島	南会津 東西しらかわ
	2 年	福 島 耶 麻	岩 瀬 伊 達	両 沼 郡 山	北会津 安 達	田 村 東西しらかわ	双 葉 いわき	岩 瀬 伊 達
	3 年	北会津 両 沼	石 川 相 馬	耶 麻 福 島	南会津 伊 達	いわき 郡 山	安 達 両 沼	石 川 相 馬

(4) 東北大会への参加，発表割り当て（令和4年11月1日（火）：岩手県）

年 度	令4年 (岩手県)	令5年 (青森県)	令6年 (福島県)	令7年 (宮城県)	令8年 (秋田県)	令9年 (岩手県)	令10年 (青森県)
ブロック	県中・県南	会 津	いわき	県 北	相 双	県中・県南	会 津